

顧客を呼びこむ ホームページの作り方

連載

第3回

営業効果を上げるには どんなコンテンツを 作ればよいか



【講師】
A&M Leader 代表
Webコンサルタント
二木 暁子

*過去の連載内容はCOMPASSのWebサイト上で「一覧」にできます。

前回では、Webサイトにアクセスしてもらうための工夫についてお話しをしましたが、今回は、アクセスした顧客を逃さない工夫をします。ここからがサイトの本領発揮の場となりますので、力を入れていきましょう。

アクセス者はWebサイトの何を見ているのでしょうか。ネットを使って「情報」を探しているのですから知りたいことがないサイトはまったく意味がありません。

お客を呼べるサイトとは、必ずコンテンツに力を入れて作られています。そしてコンテンツを読む(見る)ためのユーザビリティが考えられているのです。

では、自社のWebサイト作りはどう進めていけばよいでしょうか。サイトという媒体の中に盛りこむべきものは、自社の実力、販売して

いる製品とその内容をはっきりわかってもらいたい情報です。そして、自社が信頼のおける会社であるということも見せなくてはなりません。

とかくデザインを優先させたり動画の利用などの側面に気を取られがちですが、大切なのは情報の中味です。コンテンツ＝情報項目を明確に分け、その項目にすべての情報を盛りこむ工夫が重要になります。大きさを言えば、Webサイトは企業姿勢を表すものなのです。

アクセス者は、ネット上で市場を知り、情報収集をして、同業他社と

比較する行為に関して時間の節約をしたいのです。サイトだけで営業を行うことは無論できませんが、このようなアクセス者の要望に応えられることが営業の第一歩なのです。

発信する情報を いかに工夫するか

掲載する項目は、大きく分けて「会社案内」と「取り扱い製品の紹介」になります。

(1) 会社案内

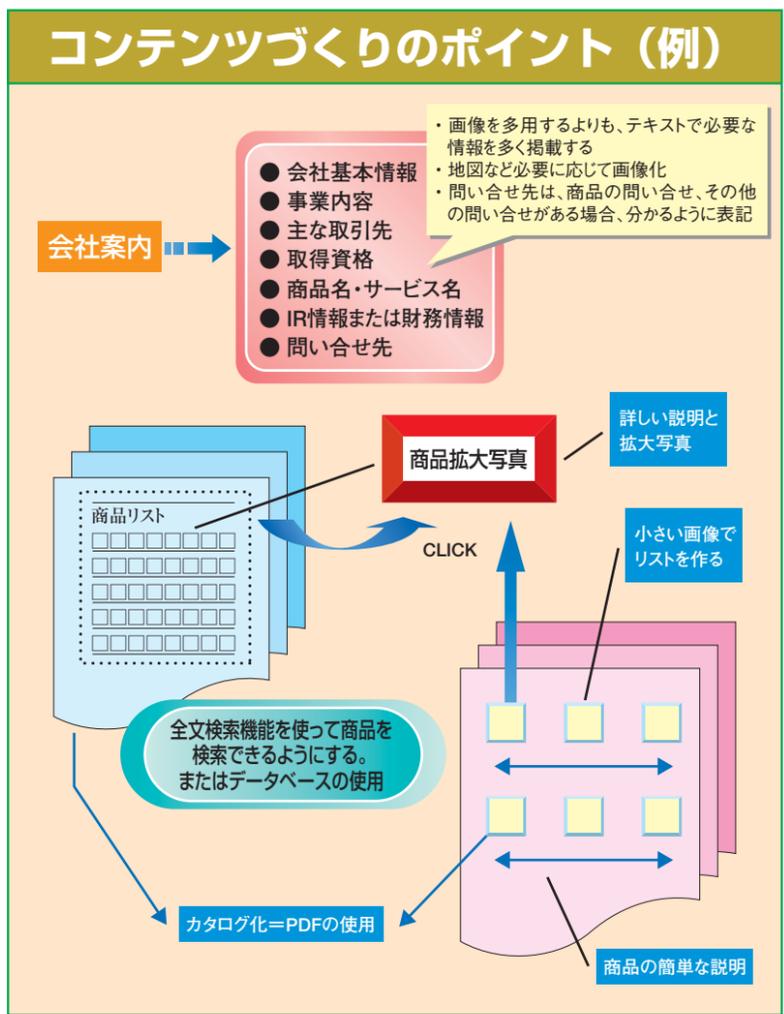
まず掲載する内容として、社名や所在地、各課もしくはWebサイトからの問い合わせを取り扱う連絡先(電話、ファックス、電子メール、担当者名)会社への交通アクセス方法や地図も入れる

・ 会社設立年月日、経営者・役員名、組織図
・ 社員数、営業所や拠点の所在地と連絡先
・ 資本金、取引銀行一覧、年商、可能な財務諸表
・ 事業内容を具体的に掲載し、商品名も合わせて載せる
・ 主な取引先
・ ISOなど取得した品質保証規格など

会社案内は会社のイメージを与えるものではなく、情報公開によってアクセス者から信用を得るためのもので、会社案内＝IR情報であると考えてもよいでしょう。

(2) 取り扱い製品の紹介

製品やサービスに関するページは、情報の正確さと見やすさを基本に構



成します。

特に商品に関しては、可能な限り詳しい内容を掲載し、アクセス者がWebサイト上で判断できるような工夫をします。サイトは商品カタログとして活用されると考えればよいでしょう。

- ・ ポイントは、4点あります。
- ・ 画像を使った商品紹介
- ・ 詳細説明(サイズや形状も)

・ わかりやすい分類

・ サイト内の検索
まず、写真に関しては、最初に商品一覧をテキストで出し、リンク機能で製品写真を出す方法と、小さな画像で製品を掲載し、写真をクリックすることで、大きな画像と詳細な内容を知らせるといった方法があります。手間はかかりますが、製品によっては最初から画像による紹介リスト

を作るほうがよいケースもあります。この場合の注意点は、リストとして作る画像のサイズを一律にして、ページ表示をスムーズにさせることです。次に、製品紹介や仕様などについては、PDFファイル化しておく、アクセス者がダウンロードしてカタログの代わりに利用することができず。そして、アクセス者の利便性を上げるために、サイト内の全文検索ができるようにするのも勿論のこと、場合、商品をデータベース化して検索できるようにするのも勿論のこと、サイト内に全文検索のプログラムを取り入れれば知りたい製品の文字を含む情報を簡単に検索できます。無料のプログラムもネット上から手に入りますので、このようなWebサイト作りも手軽に行うことができます。

海外市場を意識した場合、外国語でのサイト作りも必要です。現在よく見かける外国語ページに、英語、中国語があります。このうち英語の記述は技術的にも容易ですが、中国語については中国語向け専用ソフトを使った方が効率よく、また表示の問題も解消できます。Em Editorなど使いやすいソフトがあります。英語はビジネスで汎用に使われていますから、まずは、英語でのページを充実させておくのが良い手立てだと思います。

今回のまとめ!

- ・ 会社案内は相手が知りたい情報を積極的に公開する
- ・ 製品情報は小さい写真をうまく利用して、一覧性を持たせ、続くページで詳細を。アクセス者にとってはカタログと同じだから丁寧に